

年間第17主日

第一朗読 列王記上 3・5、7-12

福音朗読 マタイ 13・44-52

2023.7.30 9:30 ミサ

カトリック高円寺教会

主任司祭 高木健次神父

今日の第一朗読では、旧約聖書の中で知恵のある人の代表として描かれているソロモン王が神様に知恵を求め、そしてその願いが聞き入れられるというところが読まれましたけれども、今日の福音も含めて朗読のテーマというのは「まことの知恵」で、わたしたちが良いことと悪いことを見分け、そして何をその時にすべきかということ判断していく、そのためのまことの知恵ということがテーマであると言えます。

福音では天の国について語られますが、天の国というのは、イエス様に会おうというふうに言い換えてもいいわけです。イエス様に会えば、わたしたちは自分が今何をすべきかが分かり、そして正しくいろいろなことを判断していくことができるんだ、というのが今日の福音のテーマではないかなあと思うんです。

じゃあ、わたしたちがイエス様に会おうとはどういうことかと言えば、いろいろなことが自分の思い通りになるのか、周りの人が自分を大切にしてくれるのかどうか、ということに関心の中心に置いているうちは、イエス様にほんとの意味では繋がったことにはならないわけです。ミサのたび毎に、わたしたちはミサという儀式でまた秘跡を通して思い起こしているのは、イエス様は他の人を生かすためにご自分の全部を渡されたかただった、そして聖体拝領を通して、わたしたちはその生き方、その思いをわたしたちの中にもくださいというふうに神様に願います。簡単に言えば、自分が他の人に対して思いやりを保つことができるか、他の人のために自分が今していることがどうなのか、ということをして人生の指針にするならば、わたしたちはいろいろな物事を正しく判断し、そして、「自分の倉から新しいものと古いものを取り出す一家の主人に似ている」(マタイ 13・52)という言葉で今日の福音は終わりましたが、いろいろなものを、恵みを受け取っていくことができるということなんです。

自分の思い通りに出来事が起こるのか、あるいは他の人が自分を大切にしてくれるのかという基準を中心に持っているうちは、わたしたちの生き方は周り

の出来事に依存する、あるいは他の人の自分への態度に依存することになる。そういう意味では、ほんとの意味で自分自身の足で自分の人生を歩んで行くとは言えないわけです。

一方で、自分が他の人に対して思いやりを保つことができているのかという基準は、いつどんな時でも変わることなくわたしたちがその時その時にふさわしい過ごし方、あるいは言葉遣い、行動、その選択の基準になるという意味で一貫した基準たり得るというわけです。でも、わたしたちはその基準が絶えず揺らぐので、絶えずイエス様のことを思い起こし、その生き方に繋がりながら、自分の中にほんとの意味での人生の土台を形作っていく、そのように招かれていると言っていると思います。

今日これから幼児洗礼式が行われますが、それはただ単にひとつの教団というメンバーの中に迎え入れる、人数が増えるというのではなく、これから洗礼を受けるこの赤ちゃんがイエス様に会いながら、自分の中に自分の人生を自分のものとして歩んでいくための本当の土台、基準——簡単に言うならば思い遣り、それを形成していくことができるように、その成長にかかわる責任を持つ者も心新たにしつつ、でも神様の助けを願う、そのようなものではないかなと思います。

わたしたちの信仰は、自分自身を絶えず振り返る、そういうものであって、神様がわたしたちの言うことを聞いてくれるかどうかを点検する、そういうものではないです。しばしば勘違いしてしまいますがね。神様の基準で自分自身を点検していくときに道が見えてくる、ということです。

今日、新しく洗礼の恵みを受けるお子さんと共に、わたしたちもイエスともっと出会い、そしてイエス様の生きられたその人生の方向性ということをおわたしたちの中にもいただくことを通して、一人ひとりが神様から頂いた自分の人生の歩みを自分のものとして受け取り、歩んでいくことができますように、互いのために祈り合いながら、このごミサをお捧げしたいと思います。

それでは今日洗礼を受けるお子さん、ご両親、代父母の方は前に出てください。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>